

抄録

演題 『総義歯を製作するにあたって～笑顔の向こうにあるべき歯科技工士の在り方～』

私たちの求めるものは何か？

総義歯ほど素晴らしい歴史を持っている義歯はありません。

もちろん他の義歯（歯科補綴物）も同じような歴史があるでしょう。それでも敢えて、総義歯ほど素晴らしい歴史を持っている義歯はないと、私は断言します。

日本最古の総義歯は、天文7年（1538年）4月20日に74歳で亡くなられた和歌山県和歌山市の願成寺、仏姫（がんじょうじ:ほとけひめ:本名、中岡テイ）という尼僧の木床義歯とされています。外国では、フランスのピエール・フォーシャルによって1728年頃製作された総義歯が最初であり、日本の技術水準の高さをうかがい知ることができます。そこから480年もの歴史の中で、たかだか22年ほどの歯科技工士としての歴史しか歩んでいない私ですが、総義歯患者さんの求めるものは何かを模索し、様々な考え方を学び、実践し、失敗し、それでも諦めずに患者さんの笑顔のために邁進している歩みを発表し、この講演を聴講された皆さんに少しでもプラスとなれば幸いです。